

防火の決意新たに

仁淀川町消防団の出初め式が一月二十八日、青木幸雄団長以下約二百四十人の団員が参加して吾川中学校グラウンドで行われました。

最初に階級の異動があつた団員と、女性二人を含む新入団員六人に辞令が交付され、続いて本年度退団された四人に、長年の功績をたたえ感謝状と記念品が贈呈されました。

次に、平成十八年中にそれぞれの管轄区域において火災が一件もなかった十二分団に対し、日ごろの防火啓発活動に敬意を表し、無火災報償が贈られました。また自分たちの地域を自ら守るため、ボランティアで活動している久喜自主消防に対しては謝礼が贈られました。

その後、服装および機械器具点検、分列行進などを行いました。

今年一年の無火災を祈念しつつ防火に対する決意を新たにしました。

退団者

藤野 嘉秋(前中津分団長)
片岡 信行(前中津副分団長)
中川 浩司(前池川分団員)
掛水 盛正(前高瀬分団員)

無火災報償(十二分団)

大崎・名野川・寺村・狩山・
安居・森・川渡・長者・泉川・
高瀬・沢渡・別枝

消防団出初め式



新入団員



機械器具点検

2月7日、大崎保育所幼年消防クラブのもちつき防火パレードが行われました。

高吾北消防署や町消防団、大崎女性防火クラブ、保護者らが早朝からもちつきをしました。

その後、元気いっぱいの園児による歌や合奏などが披露され、続いて「僕たち、私たちは火遊びは絶対しません」などと大きな声で力強く防火を誓いました。

大崎保育所から中央公民館までのパレードでは、総勢100人余りが沿道の人たちにつきたてのおもちを配りながら、火の用心を呼び掛けました。

元気
園児
たち
い
っ
ぱ
い
の



「火遊びは絶対しません！」

保育園児も防火の誓い



大崎保育所から中央公民館までをパレード



軽可搬消防ポンプ等を購入

宝くじ助成金で

訓練用資器材配備される

高吾北消防本部

高吾北広域町村事務組合消防本部は、このほど財団法人日本防火協会より宝くじの助成金で防災普及啓発推進事業の一環として、蘇生法訓練資器材の寄贈を受けました。

当本部は、平成8年から普通救命講習に積極的に取り組んでおり、現在7,055人の受講者を出しております。これは管内人口の4人に1人は受講したことになり、このことが高く評価され寄贈されたものです。

西森消防長は、救命率向上には、住民に対する応急手当啓発が不可欠であり、今後頂いた資器材を積極的に活用していきたいと抱負を述べています。

町では、財団法人日本消防協会が宝くじの普及広報事業費を財源として実施している助成事業を活用し、軽可搬消防ポンプ一式とスタッフジャンパーを購入しました。

この助成事業は、女性防火クラブ等の強化・育成や、安全で災害に強い地域づくりの推進を目的としており、購入した軽可搬消防ポンプ等は、平成十七年六月に発足した池川女性防火クラブに配備されました。

今回の購入・配備により、地域において消火訓練の充実等が図られ、迅速な初期消火活動につながる事が期待されます。



配備された訓練用資器材一式



AEDによる蘇生訓練



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。



椿山太鼓踊り



照明設備と擬似篝火

平成18年度一般コミュニティ助成事業完了

照明設備・擬似篝火購入
(椿山太鼓踊り保存会)

このたび財団法人自治総合センターから平成十八年度宝くじ助成事業を受け、椿山太鼓踊り保存会の、夜間練習用照明設備および集落外での公演時に踊りのシンボルとなる擬似篝火の購入を行いました。

集落見聞録

(第17回)

さわたり
沢 渡

沢渡茶の歴史

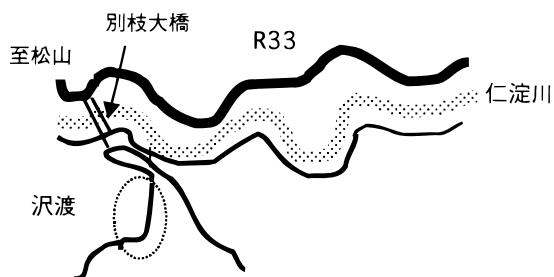
茶の栽培が盛んな沢渡では、古くから製茶も行われています。大正二年に県内唯一の手もみ製茶工場ができ、この製品は香りも高く芸術品ともいわれています。続いて昭和二年には、県内で二番目に機械製茶工場ができます。手もみ製茶工場は機械化が進むとともに徐々に規模が縮小されましたが、昭和四十二年までは操業されていました。

昭和三十八年には周辺の大見槍、道芝、太田、岩屋、別枝本村と沢渡の六集落で、沢

沢渡は仁淀総合支所から車で約15分、仁淀川に架かる別枝大橋の南側に位置しています。1月末現在21世帯、38人の集落です。

沢渡集落のすぐ下流は、昭和15年ごろまで舟の渡し場でした。舟を渡すのに、船頭が竹竿を使っていたので「竿渡し」と言っていたことが地名となったといわれています。

秋葉まつりの奉納組「沢渡組」の集落です。



茶作りの里・秋葉まつりの里

渡茶生産組合を設立し現在に至っています。茶の品評会で

は、農林水産大臣賞や高知県知事賞など数々の賞を受けました。

国道33号から見える茶園は、風薫る季節になると鮮やかな緑色の帯を敷き詰めたような景色で、行き交う人たちの目を楽しませてくれます。丹精込めた手入れが上質なお茶を育てています。

※資料、写真は谷脇洋輔さんに提供していただきました。



手もみ製茶工場（大正二年）

秋葉まつり



集落全員の支えて迎えたまつり当日。沢渡組は、茶園に囲まれた道を歩き、岩屋神社に向かいます。



2月4日、沢渡集会所では「切り飾り」に追われていました。集落総出で、太鼓や踊り棒の飾り付けなどをします。

「練り」の基礎を築いた片岡市五郎
明和三（一七六六）年に沢渡に生まれた片岡市五郎は、江戸に上っていたとき、大名行列に出会い、これにヒントを得て花鳥踊りを織り交ぜて「練り」を創案しました。帰郷後は沢渡に住み、色紙で衣装を作り、これ子どもに着せて練りの行列を多年にわたり研究した結果、完成したものと伝えられています。

長者小学校で指定研究発表会

2年間の成果を報告

「自ら進んで学習する子どもの育成」——問題解決的学習をとおして——を研究主題とした、仁淀川町教育研究会指定研究発表会が一月三十日、長者小学校で開催されました。



全校児童による音読



2年生の公開授業

発表会は、町教育研究会から平成十七・十八年度の二年間にわたり、指定を受けた同校の取り組みの成果を報告する場で、町内外の教育関係者や保護者ら約百人が参加しました。

最初に各学年の教室で授業が公開され、児童たちが集中して先生の話を聞く姿、元気よく意見を発表する姿などが見られました。その後、体育館で、全校児童が堂々と音読の発表を行いました。

続いて行われた研究発表では、同校の教諭から「生活リズムの向上とともに学習意欲が向上し、自己変容していく子どもの姿が見えてきた。問題解決学習の過程で学習の進め方や解決の仕方を身につけ、自ら考えることや仲間とともに学習することを楽しむ子どもが増えてきた。自らの学習を振り返ることで、学習内容の深まりとともに主体的な学習へとつながっていった」などの報告があり、参加者たちは真剣な表情で聞き入り、熱心にメモを取るなどしていました。

神楽・和太鼓発表会と小学生囲碁チャンピオン大会 (主催・地域子ども教室「山里デイスクール」実行委員会)

熱演!熱戦!

2月10日、中央公民館で子どもたちや保護者、地域の方々など約100人が集まり、神楽・和太鼓発表会が行われました。

この発表会は、大崎小、名野川小、吾川中、仁淀高校生が、子ども教室や学校での総合的な学習、選択音楽(吾川中)で

1年間取り組んできた地域伝統芸能を発表する場として恒例行事となっています。

和太鼓は「玄蕃太鼓振興会」から、神楽は「名野川磐門神楽保存会」から指導を受け練習を重ねてきました。舞台での熱演に、会場からは大きな拍手が送られていました。

発表を終えた児童生徒は「間違っただけど一生懸命やりました」「来年も続けてやりたいです」などと話していました。



真剣勝負

2月17日には、中央公民館で小学生囲碁チャンピオン大会が行われました。

この大会は、今年度大崎・名野川両小学校で放課後の時間を利用して始まった囲碁教室の最終日ともなりました。

碁石を並べる表情は真剣そのもの。勝負が決まるまで集中して頑張りました。参加者は表彰状や賞品をたくさんもらってうれしそうでした。